

《境島小学校の存続に対する要望書》

伊勢崎市教育委員長 様 五十嵐市長様

私達は143年の歴史ある境島小学校を、これからも存続することを願い、以下の通り署名を賛同頂ける方から集めることが叶いました。120名の署名を添付して要望書として提出いたします。

私達の境島小学校の存続を希望
致します。

2015年5月15日

境島村 1968-362 田島満、由美子

●伊勢崎市境島小学校存続のための署名のお願い (←署名依頼の文面)

新緑の候 皆様におきましては益々ご健勝のことと拝察致します。

さて早速でございますが、昨今少子高齢化の進む中での地方経済におきまして伊勢崎市教育委員会が主体となり、伊勢崎市の小学校の統廃合を奨める動きが急進化しており我が島村の子供達の通う143年の歴史ある『島小学校』も存続の危機にあります。5/19までに市民からのパブリックコメントを募り決定される見通しです。

昨年末から3度に渡り島小学校図書室にて教育委員会、区長、教師、地域住民等が集まり検討地区委員会が開催されましたが、それぞれの意見が拮抗し、分かれたまま結論は出ないままに終結しました。

大人数の小学校に通わせたい保護者もあり、少人数の小学校に通わせたい保護者もあって当然だと思いますが、伊勢崎市教育委員会の予算の関係で画一的に統廃合されることに納得が行きません。それぞれが行きたい小学校を選んで通えば解決する話を、無理やりに意見を集約して、廃校にしてしまうという考えの理解に苦しみます。

私達は島小学校を特認可小学校（島村に限らず伊勢崎市内外、他見からも児童を募る）もしくは将来的にもこの143年の歴史から教育遺産として登録の可能性も考えられると思っております。

島村の田島弥平旧宅が世界遺産に登録された歴史的背景に、幕末期の寺子屋から派生した島小学校は切っても切れない存在意義があり、『少人数の丁寧な教育』『世界遺産のバッファゾーンにある小学校』『齋藤喜博先生の歴史』『未来に繋がる教室』（島小はノーベル文学賞の大江健三郎氏の小説にもなりました）『芽をふくこどもたち』（新藤兼人監督も島小の記録映画を撮りました）等の芸術作品にもなっています。

しかし伊勢崎市は、こういった対外的にも評価された歴史と文化を全く考慮せずに人数が少ないから、予算が出せないから経済第一で一律に統廃合しようという考えです。

世界のどの例を取っても、必ず小学校のない村は緩やかに消滅しています。

未来に繋がる学校のない地域に子育て世代の家族は住まないでしょう。30年後の島村の存続を考えると、ますます超高齢化が加速されるのは他の限界集落の村と同様で島小学校を廃校にしてしまう事は大きな危機だと思います。

本当に無くなってしまってからでは、もう本当に遅いのです。

最後になりますが、どうかこの島村を存続するために、島小学校を存続するために、署名をお願いいたします。

伊勢崎市境島村 1963-362

田島満、由美子

Tel 0270-61-8813/090-1428-6871

《署名の内訳》市内：44人、県内：25人、県外：50人、海外：1人 合計：120人